



高橋正光 / 高橋正光  
2020-2021年度R11会長



# ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2840 TAKASAKI SYMPHONY ROTARY CLUB Symphony Weekly



## No. 13

**会長 / President** 高橋 正光  
**幹事 / Secretary** 齋藤 達雄  
**クラブ会報委員長 / Committee Man of Weekly Report** 大久保 伊津美  
**第 1 週 例 会** 2020年11月6日 (金)  
 毎週金曜日  
 点 鐘 12時30分  
**例 会 場** ホワイトイン高崎  
**事務所 / Office**  
 高崎市本町144-1 光明第7ビル202号室  
 T E L 027-328-3371  
 F A X 027-328-3372  
<http://www.takasakisympphony-rc.org>  
 E-mail:sym@po.wind.ne.jp  
**事務局員 / Office worker** 浅見 洋子  
**本日のプログラム** 会長の日 高橋 正光会長  
 ガバナー補佐事前訪問  
 君島准逸ガバナー補佐  
**ロータリーソング** 君が代、奉仕の理想  
**第1100回例会報告**  
 第4週 10月30日 (金) 会場：ニューサンピア  
 移動例会「Zoom体験会」  
 横山正男クラブ管理運営委員長

**御来訪者 / Visitor** 0名

出席報告	
会 員 数	49 名
出席計算人数	46 名
本日出席者	40 名
本日出席率	86.96%
先々週出席率	休 会

**幹事報告 / Secretary Report**

- ・神戸東灘RC週報
- ・例会変更 (各クラブより)

**委員会報告 / Committee Report**

**ニコニコBOX / Donator Niconico Box**

白石 隆夫君 (Zoom勉強させていただきます)  
 西園 勲君 ( " )

横山 正男君 (本日宜しくお願い致します)  
 三村 浩司君 ( " )  
 君島 准逸君 (今日は風が強いですね)

**ロータリー財団BOX / Donator Rotary Foundation**

高橋 正光君 宮口 昌利君 山崎新太郎君  
 浦野 幸男君 三浦 敦朗君 柴崎 晟君  
 林 章君

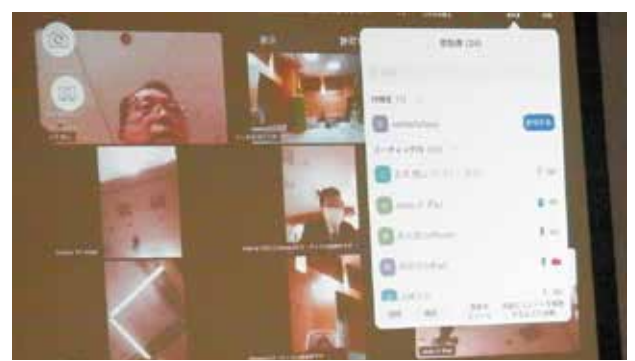
**米山奨学会BOX / Donator Yoneyama Scholarship**

宮口 昌利君 山崎新太郎君 西園 勲君  
 小野垣義男君 柴崎 晟君

**次回例会予定**

11月13日 (金) 12:30点鐘  
 通常例会 於ホワイトイン高崎  
 プログラム：ゲスト卓話 本田博己パストガバナー

## 10月30日 (金) Zoom体験会





## ポールハリスの 生い立ち 2

横山 正男

波乱万丈な生活は学生時代だけに留まらず、1891年の夏より、アメリカ全土とヨーロッパを放浪する冒険の旅「五年間の愚行」が始まったのです。

アイダホの荒野を西に進み、イエローストーンを経て、サンフランシスコに着いたポールは、サンフランシスコ・クロニクル紙のフリー・ランサーになります。ここで知り合いになったハリー・プリアムと共に、バーカー渓谷では果樹園の労務者、フレズノでは干し葡萄の包装工場で働いてその日の糧を得ながら、ロスアンゼルスまでたどり着きました。

ハリー・プリアムは後日、野球のナショナル・リーグ会長をつとめた人です。ロスアンゼルスでは、ロスアンゼルス・ビジネス・カレッジの講師をして旅費を貯め、1892年4月には列車に揺られながらロッキーマウンテンを越えて、デンバーに向かいます。ここでは、ロッキーマウンテン・ニュース紙の新聞記者として働く一方で、オールド・フィフティーン・ストリート劇場で舞台俳優を勤めました。

ショーマンとしての適性を持っていた彼の人気はなかなかのものでしたが、旅回りの一座は、あまりにも侘びしい生き方だったので、今度はプラットビルに行って、アメリカの若者のもっとも憧れる職業であるカウボーイになる。デンバーで、ザ・リパブリカン紙の記者を短期間務めた後、東へ向かったポールは、フロリダ州ジャクソンビルにある、セント・ジェームズ・ホテルの夜間事務員になりましたが、そこで知り合ったジョージ・クラークにスカウトされて、クラーク大理石会社に勤めることになり、セールスマンとして南部各州を旅するという、またとない機会に巡り合います。

1893年3月、クラークの会社をやめたポールは、クリーブランド大統領の二度目の就任式を見学するためにワシントンにやってきました。この期間中ワシントン・スター紙の臨時記者を勤めましたが、その後、別の大理石販売会社のセールスマンとして、ケンタッキー、テネシー、ジョージア、バージニアを回りました。

イギリスに行くことを夢見たポールは、フィラデルフィアから牛運搬船バルチモア号に乗り組みまし

たが、嵐の中の14日間に及ぶ下級水夫としての船旅は困難と苦痛の連続でした。そして短期間のリバプール滞在の後、パークモア号に乗って帰路にたかなければなりませんでした。

せっかくイギリスに行きながら、ロンドンを訪れることができなかったポールは、エリオットの農場の雑役やコーンの缶詰工場で働きながら、次の船便を待っていましたが、ちょうど、ボルチモアに着岸していたミシガン号の船員監督に採用されるという幸運を掴むことができました。待望のロンドンに着いたポールは、ウエストミンスター寺院や国会議事堂やロンドン塔を訪れ、古い通りと建物に響きわたるボン、ボンというビッグベンの音に自分の時計を合わせたり、船員仲間と共にテムズ川を船で下ったり、ピカデリー・サーカスやトラファルガー広場を訪れたりして、ディッケンスの描いたロンドンを肌で感じることができました。帰りの航海で寄港したウエールズのスワンシーでは、たまたま起こったストライキの影響で出港が3日も遅れたため、この古い町を心行くまで探索するという幸運に巡り合いました。

